

科目ナンバー： MmC3152

授業コード： 6630301700

講義科目名称： 助産学実習Ⅲ（助産管理）

英文科目名称： Clinical Practice in MidwiferyⅢ (Midwifery Administration)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	1単位	助産師必修
担当教員			
◎増澤祐子、常盤洋子、八巻ちひろ、五十畑麻奈美、塚田文枝			
添付ファイル			

授業種類	【開講】 前期	【授業時間】 45時間		
	【担当教員】			
	【氏名】	【所属】	【研究室】	【メールアドレス】
	◎増澤 祐子	新潟県立看護大学	311	masuzawa@niigata-cn.ac.jp
	常盤 洋子	同上	320	yotokiwa@niigata-cn.ac.jp
	八巻 ちひろ	同上	309	cyamaki@niigata-cn.ac.jp
	五十畑 麻奈美	同上	共同研究室2	isohata@niigata-cn.ac.jp
	塚田 文枝	同上	共同研究室2	ftsukada@niigata-cn.ac.jp
	【大学の科目区分】 専門分野			
	【DP1】 【DP2】 【DP3】 【DP4】 【DP5】			
	研究			
	CNS			
	助産	○	○	◎

到達目標	<p>1. 病院における助産管理の実際に参加し、助産の質保証と安全管理システムについて説明できる。</p> <p>2. 周産期管理システムにおける地域連携、多職種連携の実際を応用して助産師の役割について説明できる。</p> <p>3. 助産所における助産師の活動範囲や業務管理、安全管理、産科嘱託医との連携、緊急搬送体制の実際を学び、助産師の役割と責務について説明できる。</p> <p>4. 災害時の基本原則を踏まえた対応と助産師の役割について説明できる。</p> <p>5. 質の高い助産ケアを提供するための助産師の役割と責務について述べるができる。</p>
------	---

授業概要	周産期医療施設における助産の質と安心・安全の確保および医療事故への対応における助産業務管理、平時の災害への備えと被災時の対応の実際について学ぶ。また、地域における周産期医療施設および助産所の役割、サービス内容、連携システムについての実際を学び、質の高い助産を提供するための助産師の役割と責務について探求する態度を修得する。
------	---

授業計画	<p>授業形態：実習</p> <p>実習施設：実習施設名 新潟県厚生農業協同組合連合会 上越総合病院 みちつき助産院 所在地 新潟県上越市大道福田616 新潟市西区五十嵐1の町6379-95</p> <p>実習期間：令和8年8月下旬（この期間のうち1週間）</p> <p>実習内容：病院・助産院における助産管理の実習方法、学習計画、注意事項等</p> <p>【病院実習】</p> <p>1) 実習場所 新潟県厚生農業協同組合連合会 上越総合病院</p> <p>2) 実習時期 2年次前期（分娩介助実習終了後）</p> <p>3) 指導体制 実習施設の担当教員と病棟師長 (1) 学生が立案した実習計画を担当教員が指導する。 (2) 学生が担当教員から指導を受け立案した実習計画をもとに、学生が主体となって、病棟師長・学生・教員の3者で実習打ち合わせを行う。</p> <p>4) 実習内容 (1) 安全で快適な助産ケアを提供するための理念や目標、業務・ケア基準、業務手順の整備について説明を受ける。 (2) 助産業務の運営管理上必要な人的資源・物的資源の確保および業務内の人間関係の調整や業務の改善について説明を受ける。 (3) 法的規定に基づいて助産師が記載する各種証明書や文書、記録の適切な扱いについて説明を受ける。 (4) 病院（産科病棟）におけるリスクマネジメントの特徴、医療安全体制の</p>
------	--

	<p>整備（緊急時の対処、ハイリスク妊産婦ケアの適切な展開、医療事故防止、感染予防対策、災害対策、情報管理等）について説明を受ける。</p> <p>(5) 助産施設・組織の特性に応じた助産業務管理の展開及びケアの質の評価、PDCAサイクルの活用について説明を受ける。</p> <p>(6) 病院（産科病棟）における他職種・他部門との調整及び施設外との連携・協働について説明を受ける。</p> <p>(7) 病棟師長とともに助産業務管理を実践する（師長と一緒に行動する）。</p> <p>(8) 産科病棟のリーダーと一緒にリーダー業務を実践する（リーダーと一緒に行動する）。</p> <p>(9) 助産の質保証と安全管理システムについてテーマを設定し、学生が主体でカンファレンスを企画し、実施する。</p> <p>【助産院実習】</p> <p>1) 実習場所 みちつき助産院</p> <p>2) 実習期間 2年次前期（分娩介助実習終了後）</p> <p>3) 指導体制 大学院助産師コース教員と実習指導者（みちつき助産院院長） ※ 学生が立案した実習計画を教員が指導し、それをもとに実習指導者、学生、教員の3者で実習打ち合わせを行う。 ※ 助産所における施設見学および助産活動の見学については、実習指導者が指導を担当する。</p> <p>4) 実習内容</p> <p>(1) 安全で快適な助産ケアを提供するための理念や目標、業務・ケア基準、業務手順の整備について説明を受ける。</p> <p>(2) 助産業務の運営管理に必要な人的資源・物的資源の確保および業務内の人間関係の調整や業務の改善について説明を受ける。</p> <p>(3) 法的規定に基づいて助産師が記載する各種証明書や文書、記録の適切な扱いについて説明を受ける。</p> <p>(4) 助産所におけるリスクマネジメントの特徴、嘱託医師及び施設との連携、医療安全体制の整備（緊急時の対処、ハイリスク妊産婦ケアの適切な展開、医療事故防止、感染予防対策、災害対策、情報管理等）について説明を受ける。</p> <p>(5) 助産施設・組織の特性に応じた業務管理の展開及びケアの質の評価について説明を受ける。</p> <p>(6) 助産所の施設および助産師の活動（母乳相談、乳房マッサージ、産後ケア事業、育児相談等）の見学を行う。</p> <p>(7) 地域における助産師の活動（乳幼児健診、新生児訪問、性教育等）の見学を行う。</p> <p>(8) 産後ケア事業・子育て支援における助産所の活動と多職種との連携について説明を受け、地域母子保健の観点から助産師の役割を考察する。</p> <p>(9) 助産所における助産業務の特性と課題、助産治氏の役割と</p> <p>【実習のまとめ・学内報告】 実習のまとめと学内報告を通して助産業務管理に必要な知識と技術、助産師の責務と役割についての実習成果を共有する。</p> <p style="text-align: center;">*実習内容・方法等の詳細は実習要項参照</p>
事前・事後学習	事前学修：助産管理学特論での学修を振り返り、助産管理学に関する自己の課題を明確にしておく。また、助産師及び助産業務に関連する法規について復習しておく。 事後学修：「助産学実習Ⅲ（助産管理）」の到達目標に基づくリフレクションを通して自己の課題を明確にする。
評価方法、評価基準	到達目標の1～5に対して、助産管理学実習目標達成度50%、実習終了後のレポート30%、カンファレンス・成果発表会での発表内容10%、実習態度・意欲・倫理観10%から総合的に評価する。
テキスト	最新の論文や文献を使用するため、現時点では指定せず授業内で案内する。
参考図書・資料等	特に指定しない。
受講、課題、資料配布等のルール	実習要項を精読して実習に臨むこと。
教員からのメッセージ	助産師のコア・コンピテンシーを修得する科目である。病院・助産所での助産管理実習を通して助産師としてのアイデンティティを醸成することを期待する。
オフィスアワー	随時（メールで調整）対応する。